Engineer

受け入れ基準

個々の変更を受け入れるために満たすべき条件

どのようなものか

受け入れ基準とは、個々の変更を受け入れるための条件です。ある状況で何が観察できればよいかを書きます。「予約確認を送る」は機能を示す言葉です。「空き枠を予約したら、確認画面に予約記録と同じ受付番号と開始時刻が表示される」なら、機能の一部を実際に確かめられます。確認画面をどう作るかは、チームが決められます。

英国政府のデジタルサービス用マニュアルでは、ユーザーストーリーに対応する受け入れ基準を、サービスが役割を果たしたか確認するための結果の一覧として扱っています。ストーリーは、誰が何を必要としているかを伝えます。基準は、その合意を話し合い、実装し、確認できるところまで具体化します。その変更を受け入れるかどうかに関係するなら、エラー時の挙動、アクセシビリティ、運用上の制約も基準に含まれます。必要になる証拠は、基準によって異なります。

仕様書には複数の変更に共通する要求を記せます。テストケースは、一つ以上の基準を確認するための具体的な実行条件を示します。スクラムの完成の定義は、インクリメントに含める作業が満たすべき品質上の条件を示すものです。受け入れ基準は個々の変更で必要な挙動を定めます。例えば、対話型の機能はすべてキーボードで操作できることを共通の条件とし、新しいカレンダーでは日時を選び、選んだ予約を後から表示できることまで確認します。

概念を判断に生かす

「受け入れ基準とは？」を実際の判断に生かしましょう。その概念を、開発または購入するシステムに結び付けて考えるお手伝いをします。 事業側の要望を開発可能な内容に変え、つくる価値がないものもはっきり伝えます。

サービスを見る お問い合わせ →

用語の背後にある前提を検証する

解説とリンク先の実績を参考に、プロジェクトについての質問を整理してください。ツールを選ぶ前に、前提を一緒に検討できます。 複数チャネルで一貫したアイデンティティ — 200x ゼロから築いたブランド認知度

複数チャネルで一貫したアイデンティティ お問い合わせ →

なぜ重要なのか

基準を具体的にすると、まだ計画を変えやすいうちに期待の違いが分かります。運用担当者にとっては、記録が作られた時点で予約が成立しているかもしれません。利用者はメールが届くまで確定したと思わず、問い合わせ窓口はメールがなくても照合できる受付番号を必要とするかもしれません。それぞれ異なる結果です。どの時点で予約の確定を表示するか、メールが届かなかったらどうするかを事前に決めておけば、公開後に初めて問題に気付く事態を避けられます。

検証する側も着目点を絞れます。ある担当者は確認画面を点検し、別の担当者は制御できる環境でメッセージの送信を中断します。どちらも、何が観察できれば基準を満たすか分かっています。アクセシビリティには、自動検査に加えてキーボードで実際に操作する確認が必要な場合があります。応答時間の上限を確かめるなら、測定環境と負荷を定めます。「すばやく応答する」だけでは、合意が取れたように見えても複数の読み方が残ります。

基準に書き写していない規格や法令も適用されます。共通の規則をその変更にどう当てはめるか、チームの間で解釈が分かれそうな場合は明記します。導入した日付選択欄なら、どの操作をキーボードで行える必要があるかを挙げ、既存の規格を示します。根拠が別にある決まりを一から書き直さずに、画面上で確認できる条件を残せます。

実際の活用例

予約を受け付け、確認のメッセージを送るサービスを想定します。最初の案には「日時を予約でき、メールが送られる」とあります。サービス責任者、開発者、検証担当者が、以下の三つの場面を一緒に検討するとします。これらは説明用の例で、実際の条件はサービスを担当するチームが決めます。

- 指定したタイムゾーンで 14 時の枠が空いていれば、確定した予約が一件だけ作成されます。画面の受付番号、日付、開始時刻は予約記録と一致します。
- 要求が処理される時点ですでに枠が埋まっていれば、空きがないことが表示され、利用者は空き枠一覧に戻れます。埋まった枠に二件目の予約は作成されません。

- 予約の確定後にメッセージの配信が失敗しても、予約は保持されます。画面で受付番号を確認でき、後続の対応を担当する人が配信失敗を把握できます。

各例には前提となる状態、操作、確かめられる結果があります。Gherkin の Given、When、Then は、この順番で状況を表します。日本語では「前提」「もし」「ならば」を使えます。担当者同士で読み合わせたり、自動テストと関連付けたりするのに役立ちます。単純な変更であれば、短い一覧でも十分です。どちらの形式でも、受付番号をどの記録と照合するのか、結果を誰の視点から見るのかを明らかにします。メールが送信キューを出たことが分かっても、受信したことまでは確認できません。

最初の場面は実際の操作画面で調べます。二つ目では、要求が処理される順番を制御します。三つ目では、予約を保存してから送信の失敗を発生させます。別の人が再現できるように、条件と観察結果を作業記録に残します。当サイトのアクセシビリティ声明にも、実際の操作をどう確認したかを示す例があります。キーボードでの確認について、観察できたことと今後調べる項目を区別しています。

問題が起きるところ

曖昧な言葉は、判断を先送りにします。「エラーを適切に処理する」だけでは、画面の表示も、利用者が次にできることも分かりません。どの状態で何を知らせ、できる操作をどう残し、どの副作用を防ぐかを書きます。予約の例では、空きがないと表示された画面の画像だけでは、重複した予約が保存されていないことまで分かりません。保存された予約を併せて検証します。

必要性を確かめずに実装方法を条件にする書き方もあります。「新しいキューを使う」は妥当な設計判断かもしれませんが、メッセージが遅れた場合に起こることを説明していません。技術上の判断は理由を記録できる場所に残し、基準には観察できる挙動を書きます。外部システムとの連携で特定のプロトコルが必須なら、その根拠と適用される範囲を記します。

反対に、一覧が長くなり、リリース全体を説明するものになることもあります。作業を結果ごとに分け、重要なエラー時の挙動は対応する機能と一緒に扱います。共通の制約と、今回の変更を誰が検証するかを決めます。試作やテストで条件の抜けが見つかったら、基準を変更した理由を記録して、影響のある検証をやり直します。後から読む人が、どの合意について何を検証したのかを追えるようになります。

参考資料

- 英国政府のサービスマニュアルのユーザーストーリーと受け入れ基準
- Cucumber の Gherkin リファレンス
- スクラムガイドの完成の定義
- キーボード操作の確認に関する W3C の解説

用語集

実際の制約に合わせて選ぶ

必要な判断、影響を受ける人々、すでに検討した選択肢をお知らせください。選択に伴う利点と不利益を明確にし、推奨案を文書に残せます。

料金を見る お問い合わせ →

用語を実務に結び付ける

「受け入れ基準とは？」がお客様の組織にどう当てはまるかをご相談ください。現在のシステムの具体例が一つあれば、話を始められます。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く 連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://engineer.company/ja/glossary/acceptance-criteria/